

報告文献別一覽表

報告文献別一覧表(医療機器)(2004/10/01～2005/03/31)

番号	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	臨床医	E型肝炎ウイルスが途上国での流行性肝炎の主要な原因ウイルスであり、先進国での人畜共通感染症としての散発性E型肝炎の起因ウイルスであることが明らかとなった。
2	E型肝炎	現代医療 36 2211-2216	E型肝炎ウイルスは発展途上国での流行性E型肝炎の原因であると同時に、主として先進国での人畜共通感染症として散発性E型肝炎の原因ウイルスであることが明らかになった。
3	E型肝炎	WHO Communicable Disease Surveillance	2004年5月22日から9月17日の期間、E型肝炎の疑い例による6861人の感染および87人の死亡がスーダンの診療所から報告された。WHOをはじめとする保健職員が石鹸の使用促進、井戸の新設、貯水槽や井戸の塩素処理徹底等の集団衛生教育プログラムを拡大中である。
4	E型肝炎	Nihon Univ. J.Med. 46 107-116	E型肝炎は主として発展途上国で流行していると考えられており、日本では輸入感染症と呼ばれている。しかし、日本において流行国への旅行歴のないE型感染例が報告されている。本報は非Aから非C型肝炎を有し、海外渡航歴のない患者でE型肝炎ウイルス感染を調べた。その結果39例中13例で抗HEV-IgGが検出された。
5	E型肝炎	内科 93 430-434(2004)	E型肝炎ウイルスの解説。
6	E型肝炎	共同通信平成16年11月28日	北海道で8月中旬にブタの内臓を食べた6人がE型肝炎に感染し、1名が劇症肝炎で死亡し、E型肝炎と診断された。この患者の息子は、9月に献血しており輸血を受けた患者もE型肝炎に感染していた。
7	E型肝炎	ProMED	2004年8月に北海道の焼肉レストランでブタレバーを摂取した6人がE型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡した。日常的な食品が原因となったヒトへのE型肝炎伝播は日本での初の報告事例である。
8	E型肝炎	Xenotransplantation 11 503-510(2004)	E型肝炎ウイルス感染は日本の家畜ブタにおいて著しく蔓延しており、農業従事者および獣医師のようなブタを扱うものがHEVに感染するリスクが増大している。ブタは異種移植において最も受け入れやすい候補動物であると考えられている。取扱者の感染防止策として、使用するブタの抗HEV抗体、HEV RNAの定期検査を行うことが重要である。
9	E型肝炎	治療学38 964-967(2004)	HEVが人畜共通感染症であることが示されており報告件数は国内で10件に至った。多くはブタ、イノシシ、シカの生肉や加熱が不十分な肉を摂食したためと考えられる。市販の生豚のレバーの中から約2%の割合でHEV RNAが検出されている。植物由来以外ではHEVに不顕性感染したドナーがウインドウ期に献血したことによる輸血後E型肝炎の活性が報告されている。
10	E型肝炎	Journal of Clinical Microbiology Vol.42, No.11, Nov2004 p5047-5052	ブタ糞口経路によるE型肝炎伝播に成功した最初の報告。
11	E型肝炎	Virology 330 2004; p 501-505	野生イノシシおよびシカから得たE型肝炎の完全もしくはほぼ完全なゲノムは配列に関する報告。
12	SARS	J.virology 78 9007-9015	重症急性呼吸器症候群(SARS)コロナウイルスに関して、ブタでのSARS感染に対する感受性が示唆され、ヒトへの感染源はブタの可能性があるとされている。

番号	感染症(PT)	出典	概要
13	SARS	米AABB	NIHはSARSワクチンのヒトにおける試験を開始予定。安全性に関する試験として志願者10名において32週間のフォローアップが行われる予定。
14	インフルエンザウイルス	Clinical.Infections Diseases. 38/5	トリインフルエンザは野生鳥由来で、家畜やブタに感染し交雑して致死性になったと考えられる。ヒトとトリインフルエンザ間の遺伝子変換はまれで、実際にもヒト間の顕著な感染の証拠もなく感染の潜在性は限られたものである。
15	インフルエンザウイルス	Microbes Infection 6 919-925(2004)	2002年10月～2003年1月にかけて臨床症状を示す山東省各地の感染源から10株のインフルエンザウイルスH9N9亜型株が分離された。これらはニワトリのインフルエンザとアヒルのインフルエンザと類似していた。
16	インフルエンザウイルス	Intervirology 47 72-77(2004)	1982年～2001年にドイツで発生したブタ呼吸器病発生例から分離したインフルエンザウイルス株H3N2亜型のHA1遺伝子について部分比較すると4つの相異なるクラスターが識別できる。クラスター間のbp相同性は90%未満でありクラスター内の相同性は93.7～100%であった。
17	インフルエンザウイルス	Chinese J.Preventive Veterinary Medicine 26 1-6(2004)	2002年中国で採集された1936件のブタ血清について検査した結果、遼寧、広東、山東でH9亜型インフルエンザ抗体が7.3%、6.8%、5.1%検出された。2003年はすべて陰性だったが、広東、福建でH5亜型抗体が4.7%、8.2%検出された。2001～2003年に採集された試料からは6株のH9N2亜型、2株のH5N1亜型ブタインフルエンザウイルスが同定された。
18	インフルエンザウイルス	J.virology 78 8609-8614	H9N2インフルエンザウイルスに関して、1999年以降はヒトおよびブタにおいても一過性に感染症を引き起こしていること、2001-2003年で最も有病率が高いサブタイプであった。
19	インフルエンザウイルス	J.Clin.Microbio. 42 4349-4354(2004)	2001年と2002年にカナダのブタからA型インフルエンザウイルスH3N3およびH1N1が分離された。これは系統発生的に水鳥ウイルスと関連性があり、抗原性は基準ブタウイルスと異なっている。このことから北米においてインフルエンザウイルスが水鳥からブタに種間伝播している可能性が強調された。
20	インフルエンザウイルス	Proc.Natl.Acad.Sci.U SA 101 10452-10457(2004)	鳥インフルエンザの哺乳類に対する病原性の仮説。①鳥インフルエンザの遺伝子が、ある遺伝子座の一部に存在する場合、哺乳類への感染が促される。②ブタへの淘汰の関与。
21	インフルエンザウイルス	神戸市環境保健研究所報 32 39-45	養豚場で飼育しているブタの鼻腔粘膜の分泌物、秋から冬に飛来する水鳥の糞試料を採取しウイルス分離を行った。その結果ブタ788頭はすべて陰性、水鳥642サンプル中4株のウイルスが分離された。
22	インフルエンザウイルス	CDC Recent avian influenza outbreaks in Asia	2005年2月17日現在の進捗。ベトナム37例、タイ17例、コロンビア1例。タイの1例はヒト-ヒト感染によるものであるが、ヒトからヒトへの感染の決定的な根拠は見つかっていない。H5N1は初期のH5N1より病原性を高めており広域の鳥類に発生するようになっている。また、H5N1に感染したアヒルが無症状で長期間ウイルスを排出していることの研究報告もあり、アヒルから他の鳥類やがてはヒトにも感染する可能性が非常に高いことを示している。
23	インフルエンザウイルス	WHOホームページ	2005年1月12日現在で、タイとベトナムにおけるヒト感染症例は総数47例(うち死亡34例)飼育アヒルがH5N1トリインフルエンザウイルスの無症候性保因者になっている可能性がある。
24	インフルエンザウイルス	WHOホームページ	中国のいくつかの地域でブタにおけるH5N1鳥インフルエンザウイルスの感染が報告されている。H5N1ウイルスがブタにすでに定着しているかどうかは不明。

番号	感染症(PT)	出典	概要
25	インフルエンザウイルス	鶏の研究 79 82-83(2004)	インフルエンザの種間感染の可能性について、トリ、ブタ、ヒトから分離されたインフルエンザウイルスの遺伝子配列を解析することにより検討。トリインフルエンザの種間移動は潜在的に人畜共通感染症との係わりを持ち、腸内又は呼吸器管で複製する菌株遺伝子にとって組み合わせと選別に好都合な接触を可能にする国々の農村地方では水鳥、ブタ、人間間の種間感染は発生すると推測される。
26	ウイルス性脳炎	臨床と研究 81 1600-1604	1988年にマレーシアの養豚地帯でウイルス性脳症が流行した。原因はニパウイルスで、ニパウイルスはブタとの接触によることが明らかとなったため抗体検査およびブタの移動を禁止する処置をとるとともに養豚農家のブタの殺処分を行ったところ流行は終息した。
27	ウイルス性脳炎	J.Virological.Methods 120 229-237	ニパウイルスを迅速かつ特異的に特性づけ、定量化するためにニパウイルスの核蛋白をTaqMan RT-PCR法を用いて検出した。
28	ウイルス性脳炎	Emerging Infectious Diseases Vol.10 2228-2230 (2004)	マレーシアでウイルス性脳炎流行地域の発症豚からニパウイルスを分離して塩基配列を決定した結果、2つのタイプのニパウイルスが検出された。セレンバンからの分離株とスンダイ・ブローからの分離株は、既報告のヒト分離株と事実上同一であつたがブタがヒトへの感染源になることが確認された。これに対し、タンブンからの分離株はこれらとは異なる変種であった。
29	ニパウイルス	からだの科学増刊 114-117(2004)	マレーシアで発生したニパウイルス感染症の調査結果の解説。ヒトへの感染経路はこうもりから直接ではなく感染ブタとの接触による経路のみとされている。ブタ間は効率よく感染するがヒト間は極めて稀である。
30	ニパウイルス	農林水産技術研究ジャーナル 27 32-37(2004)	マレーシアで発生したニパウイルス感染症の調査結果の解説。ヒトが感染した場合には40%と高い死亡率を示すがヒト間感染ほとんど起こらなかった。ブタへの感染は比較的容易に成立しウイルスを多量に排泄する。しかも臨床症状はそれほど特徴的ではなく不顕性感染も成立する。多くの動物が感受性を示すことがわかっている。
31	ウエストナイルウイルス感染	MMWR Weekly, August 53 738-739	2003年10月、ジョージア州公衆衛生局は同じ郡に居住し同じ日に同じ透析装置で血液透析を受けた2名の患者が西ナイルウイルス疾患と確認されたとの通知を受けた。しかし疫学調査では感染源を特定するにいたらなかった。
32	ウエストナイルウイルス感染	MMWRホームページ	2003年、ウエストナイルウイルス感染性血液のスクリーニングとしてNATを採用した結果、約800件の血液成分がウエストナイルウイルス感染の疑いで隔離されたが、輸血関連感染が6例報告された。
33	エルシニア感染	Letters in Applied Microbiology 39 103-108	ヒトにおけるエルシニア感染とブタとの関連性についてブタがヒト病原性エルシニア感染の主要な感染源である可能性が示唆された。
34	狂犬病	米国CDC MMWR	2004年10月、以前は健康だった15歳女児がこうもりに噛まれたあと狂犬病と診断された。本報告は暴露前、暴露後のどちらの狂犬病予防も受けなかった患者における狂犬病からの回復の初めての報告である。
35	口蹄疫	Office international des Epizooties Diseases Information	コロンビアで17780頭のウシ、1414頭の豚、815頭の羊、29頭の山羊の検査をした。ELISA法をはじめとする血清学的検査で261頭の陽性反応ウシが発見され、殺処分された。
36	口蹄疫	http://www.forth.gov.jp	ペルーで6ヶ月ぶりの口蹄疫ウイルスによりウシ9頭が死亡し、ヒト10名が感染したと発表。口蹄疫は人では軽症であるが、今回のように多数の人が罹患するのは極めてまれである。
37	口蹄疫	国際獣疫事務局ホームページ	ロシア政府当局は2004年9月17日以降一時的に中国産の生きた動物と加熱処理をしていない全動物由来製品の輸入と国内通過を制限したと発表。しかし、2004年1～8月の間の中国での口蹄疫を伝える情報は存在しない。

番号	感染症(PT)	出典	概要
38	BSE	Office international des Epizooties Diseases Information	2005年1月4日、カナダでの発生例報告。感受性個体数110頭、感染1頭、廃棄処理1頭。
39	BSE	Office international des Epizooties Diseases Information	英国を除くOIE加盟国における24ヶ月齢以上の牛から発見されたBSE感染および発症率からみた発生状況。
40	BSE	Proc.Natl.Acad.Sci.U SA 101 3065-3070(2004)	第二のウシ伝達性海綿状脳症(TSE)の証拠提示。典型的BSE症例にアミロイド沈着が存在しないのと異なり、この疾患の病理学的特徴はPrP免疫陽性アミロイドプラークの存在および脳内不溶性プロテアーゼ抵抗性アイソフォーム蓄積の局所分布と位置の固有のパターンである。これまで報告されていないこのウシPrPscの分子的特徴は、孤発性クロイツフェルトヤコブ病の特殊なサブタイプに認められる特性と類似していた。
41	クロイツフェルトヤコブ病	米AABB	FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会(TSEAC)は血液および血液製剤によるvCJDおよびCJDの伝播リスクを低減させるために米国で実施されている措置は適切である。白血球除去とBSE感染力、CBERドナー調査の強化について、CJDLookback試験により感染した輸血者がいないことが判明した。
42	クロイツフェルト・ヤコブ病	J.Biol.Chem. 279 23661-23667	ヒト尿中プロテアーゼ耐性プリオン蛋白をウエスタンブロット法、LC/MS法、N末蛋白配列分析法で分析した。Shakedらによって報告されたバンドは見られなかったが、ほぼ37kDaに明らかな不連続蛋白がプリオン患者と対象患者の尿中に検出された。患者尿中のPK耐性蛋白中のエンテロバクテリアの大部分は外膜蛋白であり、この外膜蛋白は37kDa周辺を移動した。この所見からバクテリア汚染がプリオン蛋白の免疫学的検出に影響を及ぼすことを示唆している。
43	クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 364 527-529(2004)	後にvCJDを発症したドナーから輸血を受けて5年後に神経障害以外の原因で死亡した未発症vCJD患者の英国での初症例報告。脾臓からプリオンが検出されたが脳からは検出されなかった。vCJD感染に対する感受性がメチオニンホモ接合のプリオン蛋白遺伝子型に限定されないことを示唆。
44	サルモネラ症	臨床獣医22.8.14-18(2004)	ブタのサルモネラ症はSalmonella Cholerasuisによる敗血症とS.Typhimuriumによる下痢を主徴とする疾病である。国内各地で散発している。
45	サルモネラ症	J.Medical Microbiology 53 691-695	ブタにおけるSalmonella Typhimuriumの侵入経路を、空腸ループモデルを用いて検討。その結果、複数の型の上皮細胞からSalmonellaは侵入するが、早期Salmonella感染ではパイエル板が主要な侵入経路であることが示唆された。
46	条虫感染	養豚の友 425 56-59(2004)	条虫症に関する正しい理解を記載している。ブタを中間宿主としてブタが虫卵を食べると小腸で孵化して幼虫となり、腸壁から侵入して全身に分布して嚢虫を形成する。寄生部位として最も多いのが筋肉であるが、中枢神経を含めどこにも寄生できる。したがってヒトが豚肉を生で食べた場合に感染する可能性があるとして述べている。
47	人畜共通感染症	Parasitology Reserch(PARASITOL RES):92/4(328-334)2004	338点の牛の便検体中のEnterocytozoon bienersiを分析した。牛由来のE.bienersi分離株において顕著な5種類の遺伝子型に代表される高度の遺伝多型が確認された。
48	大腸菌	月間養豚界 39 50-51(2004)	子ブタが溶血性大腸菌O121:H-に感染し、大腸性腸管毒素症と診断された。浮遊病の原因毒素であるStx2e遺伝子が確認された。対策として母ブタの糞便の除去、消毒の徹底、飼料の改善、薬剤投与で感染症は終息した。当該原因菌に人へ疾病をもたらす腸管侵入性大腸菌の遺伝子であるinvEが見つかっており、公衆衛生上からも注意すべき事例である。

番号	感染症(PT)	出典	概要
49	トキソカラ症	Veterinary parasitology 121 115-124	ブタや家畜の幼虫のいる内臓を消費することで生じる可能性のある Toxocara canis 人畜共通感染リスクをブタモデルで評価した結果、ブタ組織はヒトと類似し、ブタ組織が高い感染率を示すことがわかった。ブタや家畜のイヌ回虫の幼虫が寄生している臓器や組織の肉を生あるいは火の通っていない状態で消費することでヒトの犬幼虫感染が容易に起こることが示唆された。
50	トキソプラズマ症	養豚の友 424 50-53(2004)	トキソプラズマに関する正しい理解を記載している。ネコ科動物だけが終宿主であり、ヒトやブタ等のほかの哺乳類への感染は経口感染によるもので中間宿主となりうる。妊婦、胎児における感染および疾病等で免疫力が弱ったヒトには注意すべきである。
51	バンコマイシン耐性腸球菌感染	Animal Science J. 74 521-523	40件のバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)を京都の農村部の養豚施設のブタの糞から検出した。感染源、感染ルートは不明。
52	ハンタウイルス感染	Microbiol.Immunol. 48 843-851(2004)	1221匹のげっ歯類と食虫類が捕獲され、ハンタウイルス感染に関する動物伝染病研究が実施された。その結果、アカネズミ、ドブネズミ、クマネズミ、タイリクヤチネズミで検出された。1匹のクマネズミの血清を増幅した結果、塩基配列はソウルウイルス(SEOV)原型系統SR11と96%同一であった。また、ヒト結成試料のうち1試料からハンタウイルスが検出されその個人がSEOVに感染していることが示された。
53	豚コレラ	Office international des Epizooties Diseases Information	2004年8月24日に発生したと疑われるブルキナファソ中央部における発生例の報告。感受個体数149000頭、感染800頭、死亡601頭。全地域に豚の移動を禁じる指示を通達し、洗浄・消毒、衛生対策遵守の重要性について啓蒙した。
54	豚コレラ	Office international des Epizooties Diseases Information	2004年11月25日にエリトリアで発生した事例報告。感受個体数900頭、感染90頭、死亡45頭。対策として検疫を強化し根絶のための委員会が設立される。
55	豚コレラ	Office international des Epizooties Diseases Information	2004年12月21日から2005年1月5日の間にナイビアで豚コレラの発生が報告された。感受個体数60頭、感染5頭、死亡4頭、廃棄処理56頭。発生確認後残ったブタの廃棄、小屋の消毒、敷地の閉鎖の措置をとった。
56	豚コレラ	Disease Information 21 January 2005 vol.18- No.3	ムワンザのパムバ地区で2004年12月15日から28日に豚27頭が死んだことからアフリカ豚コレラが疑われた。ウイルスは単離され、感染豚の株は同一であることが確認されている。
57	豚コレラ	Disease Information 21 January 2005 vol.18- No.4	感受性の高い豚300頭の内160頭が死亡し、140頭が処分された。分離株は豚コレラウイルス2型に属すると考えられた。直接蛍光抗体法およびPCR法は陽性であり、ウイルス単離により豚コレラウイルス株が同定されている。
58	ブタ内在性レトロウイルス	Transplantation 77(10) 1580-1588	ブタ内在性レトロウイルス(PERV)はヒト細胞に感染することがわかっているが、ブタ組織に暴露された患者において、PERV感染は認められていない。In vitroではヒトやマウスに感染が認められている。ヒト血清はレトロウイルスを自然に不活化する能力を持つと説明できそうである。
59	ヘパリン誘発性血小板減少症	CircJ 68 1215-1218	日本におけるヘパリン誘発性血小板減少症の1症例。
60	ヘルペスウイルス	J.general virology 85 857-862	野生の偶蹄類で新規ヘルペスウイルスが発見された。家畜ブタにもまだ未発見のウイルスが存在する可能性があり異種移植への懸念がある。ブタおよび他の種についてヘルペスウイルスを調べた結果、可能性が完全に否定できないため、異種移植に対しては更なる安全性の調査が必要である。

番号	感染症(PT)	出典	概要
61	連鎖球菌性敗血症	J.Bacteriology 186 4740-4747	連鎖球菌の決定的な毒性因子等はわかっていない。そこで多くの粘膜病原体の毒性因子として知られているヒアルロン酸リアーゼの分布、多様性、In vitroにおける発現について研究した結果、肺炎に關与する分離株は多数の株で活性が認められているものの、このタンパク質は決定的な毒性因子ではないと考えられる。